

【野辺山ウルトラ 2017】

天間 明美

初挑戦 5 分オーバーでのゴールから一年、昨年の初ウルトラ野辺山の悪夢は忘れない。月 50 キロも走らず、何の事前準備もせず出場、周囲からも無理といわれ、わけもわからず、時間配分もできず、苦しくて淋しくて、みんなの助けにも答えられず 5 分遅れでフィニッシュ。ゴールで倒れ、立てなくなり、車椅子。かなりのダメージを残して帰宅した。翌日以降周囲に労いや励ましの言葉をもらうたび、だんだんと現実に戻り、悔しくなり、思い出すたび涙が出た。後悔でいっぱいだった。

昨年の失敗もあり、完走できる自信がなかったため、今年の野辺山ウルトラ出場は正直ずっと迷っていた。しかしどんどん周りの皆が出場を決め、とうとう URC パーティの壇上で出場を断言してしまったこともあり申し込み。今度こそ失敗できないと思ったものの左足が痛いからという理由と、フルマラソンへの出場もあったので、3 月まではほとんどウルトラの練習をおこなわなかった。さすがに焦り出し、4 月からゴールデンウィークはロング走に専念し、自分にとってはかつてないほどの距離を走った。ただ身体の左側を股関節中心に痛めていたため、練習を続ける中でキロ 6 分 30 秒以上を出すのは危険だと自分の中で認識できた。昨年の孤独もあり、自分 1 人で走り抜くのは絶対無理だと思っていたため、早川さんと一緒に前原さんをお願いし続け、聞き入れてくれたのかわからなかったけど前原さんについて行こうと決めた。昨年は京子さんと女子 2 人で出場。京子さんはしっかり完走して、完走できなかった私に、自分が貰った大切なメダルをお手紙と一緒にくれた。そのためなんとしても完走して、京子さんにメダルをかえさなければならないという義務感もあった。

今年女子で出場するのはまきさんと二人、初出場なのに常に明るく支えてくれた。2 人で励ましあいながら準備を進めた。でも 2 週間前ぐらい前から怖くて眠れなかったり、去年のことを思い出したり、不安な日々が続いた。当日はきっとサポートしてくれる？はずであった高野シェフも仕事の都合で出場できなくなってしまった。ますます不安がよぎった。

1 キロ～42 キロ

スタート前からノースリーブ&短パンなのに朝 5 時の段階でなんとなく暑く、自分が究極の暑がりのため、このあとどれだけ気温があがるのだろうか不安がよぎった。あんなに時間があつたのにスタート直前で足の裏にテーピングをはり、不器用なのでぐっちゃぐちゃになってしまった。みんなで握手をしてスタート！前原さん、まきさん、真仲くんと一緒に話しながら進んだ。去年も通ったコースが蘇り、美しい景色を望みながら楽しく走った。しかし自分にとっては意外と激しいアップダウンが続いた。もうこれで最後の登りだよと言われてから、7 登り坂ぐらいあったと思う（ちょっとイラっとした。）結局膝の痛みが完治しておらず、下りで飛ばしたら悪化して走れなくなると言われていたため、登りをなるべくしっかり走り、下りは無理せずゆっくり走った。しかし、この時点で既に暑いのとアップダウンの多さで息がかなりあ

がってしまい情けなかった。まきさんとは、前日話してお互い先に行かなくてはならないときは、進もうと約束していた。確か35キロぐらいで「もう無理かもしれない。」と言われたとき涙が溢れ、泣きながら走った。自分もかなりきついが、まきさんがもっと辛そうなのはわかっていて。42キロのエイドでまきさんと別れなければならないときは、悲しくて涙がとまらなかった。でもこのとき絶対にまきさんのためにも完走しようと強く思った。

42キロ～87キロ

エイドを出発してすぐに辛くなった。梶田さん、砥上さん、初めて会ったマスさんが明るく声をかけてくれたが、それどころではなく申し訳ないと思いながらも殆ど答えられなかった。エイドのマルガリさん、しゅうじさん、コータローさん、みゆきさん初め、皆暑い中、応援し、励ましてくれるのにいっぱいいっぱいニコリともできなかった。会長と西村さんともすれ違ったがあとから二人から廃人のようだったと言われた。途中真仲くんも不調になり先に行くことになった。前原さんに着いていかなきゃと思いながらも思うように着いていけず、前原さんが前をむいて走っているときに歩き、後ろをむいたら走るという姑息なことを繰り返していた。本当に苦しくてそうすることしかできなかった。(完全にばれていた。)暑さで身体が焦げそうになり皮膚から疲労がきた。頭もクラクラするし、寝不足もあり、だるさでフラフラだった。この時直射日光から皮膚を守れない自分の軽装(ノースリーブ&短パン)を死ぬほど後悔した。水を見つけると頭を差し出し、水を頭からかけてもらい、ボロ雑巾のようだった。3回かけて欲しいのに2回しかかけてもらえずもう1回って言いたいけど声も出さなかった。この頃から気持ちが悪くてバナナとスポーツドリンクとコーラしか口にできなかった。私があまりにもついていけないため前原さんに「なるべく離れないで後ろについて。」と何度か言われたが直ぐ離れてしまい全然ついていけなかった。うる覚えだが「走る気はあるのか。」的なことも言われた。恐いと思いながらも、完走できないことのほうがもっと恐ろしかった。それでも思うように走れないためとうとう「このままだと完走は無理かも。どうする?」と言われ目の前が真っ暗になった。絶対にリタイアは嫌だと思い、とにかく止まらず走った。どうしても走れないときは早歩きをしたが、それでも「歩いたらちゃんと歩いて。」と、、、自分では早歩きのつもりなのにそれもできていないんだと思い悲しくなった。とうとうあまりにもダメダメだったのか、見えないほどかなり遠くに前原さんが行ってしまった。今まで前方に常にいたのに視界から消えてしまい涙が出た。でもきっと待っていてくれると思い、必死で前に進んだ。72キロのエイドで前原さんが見えた!エイドで一番大きいバナナを口に加えドリンクをつかんで、「頑張るので完走させてください。」と改めてお願いをした。そのときはもう足が壊れてもいいから完走したいと思った。もともとゆっくり降りようと思っていた馬越峠の下りも転んでもいいから駆け下り、時間を稼ごうと心の中で決めた。今考えると一度も諦めようとは思っていなかった。

87 キロ～100 キロ

最後の13キロは馬越峠の登りと下りを頑張ったから、だいぶ貯金ができたとわれ（長い道の中初めて褒められた！）本当に嬉しかった。このときもしかしたら完走できるかもしれないと思い始めてきたが、まだまだ不安があった。

そのあとマスさんと砥上さんと合流し一緒にゴールすることになった。もう全部歩いても大丈夫だとみんなは言ってるけど、私は本当に大丈夫か不安でならなかった。もしここで転んだらとか、去年の口惜しさがあったので、本当に完走できるか何度も聞き、さすがにうるさいとキレられた。残り10キロぐらいのところからシェフが見えた。仕事が終わりに、駆けつけてくれたのだ。嬉しかったけど朦朧としていてあまり答えられなかった。シェフはまだ後方にいる間仲くんを迎えに行った。この後、榊田さんや、奥山さん達も合流した。昨年地獄だった最後の5キロが本当に本当に幸せだった。ラスト2キロで応援のみんなが出迎えてくれた。大好きなランナーズの人達に会えた！ビールは我慢してコーラを頂きながらまたわけがわからず涙が出た。最後2キロは早々に完走した佐々木さんも一緒に走ってくれた。（後ろから何度も足を踏まれて転びそうになった。）

ゴール前からみんなで走った。本当に感無量だった。みんなで手を繋いでゴール！（ゴールの瞬間思いがけないことがあったがそれは個人的に聞いてくださいw）本当に本当に嬉しかった。会長初めみんなが出迎えてくれてみんなとハグしたり握手したり大感激。昨年とは違うゴールだ！みんなに囲まれているうちにゴールさせてくれた前原さんがいなくなってしまった。まだお礼を言えてないと思い、必死で探した。とっくに荷物を取りに行っていた前原さんに会ってお礼も言えた。前原さんがいなかったらゴールできなかった。

長かった14時間いや、去年の野辺山ゴール後から始まっていた野辺山との戦いがやっとやっと終わった。でもゴールした瞬間、また新たな挑戦が始まったのだと思う。それは来年の野辺山なのか、フルなのか、トライアスロンなのか、トレイルなのか、、、誰にもわからない。ランではないかも、、、でも挑戦はエンドレスだ。

完走に導いてくださった前原さん初め、ご指導、応援してくださった皆様、こんなに素晴らしい奇跡を与えてくださり心から感謝いたします。

～ランナーズの皆様へ～

このチームに入った時、親分の「4時間切らないとマラソンじゃない」という発言を聞き恐ろしいクラブに入ってしまったと後悔しましたが、クラブに入って日々喜びを感じ、幸せだと心から思います。皆目標はそれぞれですが、これからも一緒に走り、仲間を讃えあえる素晴らしいクラブにしていきたいといます。

♡絶対に諦めないこと♡前へ前へ

天間明美 拝